

ないものはない

先日、とある新聞のコラムのタイトルに「ないものはない」と記されていた。それを見た瞬間に、当HP「大人の食育書（いしかわ旬の鮭だより®百選譚）ページ」→「コラム①機会損失について」の「ないないタイプ」を連想させた。

（「ないないタイプ」の詳細については、該当ページを参照願います）

「ないものはない」は「ないないタイプ」の典型的な症状であるような気がして止まないとこらだが、その解釈としては、以下の2通りとなり得るのであろう。

- 1) 何でも揃っていますから、（ご要望のモノが）「ない」ことはありません。
- 2) 「ない」から、（ご要望されても）「ない」ことには変わりありません。

「ないないタイプ」に照らし合わせてみると、

<1> に関しての事例>

先日、レジャーシート（遠足の敷物、利用目的：炬燵布団カバーとして）を求めてホームセンターに出かけた。店員さんの案内で探してみたが、生憎無かった。理由は「炬燵の季節ではあるが、遠足の時期ではないから置いていない」であると勝手に結論付けた。

そもそも、店舗側に「炬燵布団カバーとして利用」の目的は知る由もないし、本来、レジャーシートは「レジャー（遠足）の敷物として利用する」という正当な利用目的があるのだから、この時期置いていないことは自然であり、「ない」ことは必然となる。

「ホームセンター 商品点数」で検索すると「18～20万」との結果。話半分としても約10万点のアイテムも揃えているのだから「ないはずはない」と思って出かけたが、「ない」という結果となり、結論から先に言えば、百貨ショップである程度満足できる品を見つけ、100円で購入したということになった。ホームセンター側としては、これだけの商品を準備しながらの「機会損失」となる。100円の損失なのかどうなのか。

<2> に関しての事例>

先日、「ない」と知りつつ、笹を求めて産直系スーパーへでかけた。当然ながら「なかった」ので顔見知りの店長に尋ねると、やはり「あれは、お祭りの時期だけ」との返答。それでも、どうしても必要なことから、残り少ない在庫の袋のラベルから生産者（団体）を検索し連絡してみると、意外にも「あった」。もう降雪・積雪の時期で諦めかけていたところ「ダメもとで連絡」が奏功した結果となった。危うく、当方・スーパー側・生産者側、三方の「機会損失」となるところであった。スーパーの店長には多少腹立たしいが、生産者が当方から遠方のことより、スーパーを経由して調達する手配とした。狭いながらも当方・スーパー側・生産者側の「三方良し」の結論となった。めでたしめでたし。